



ドメスティック・バイオレンス (DV) 被害を受けている女性は、どのような思いを抱きながら妊娠～産後を過ごしているのか？ :DV 被害からの回復プロセス

ドメスティック・バイオレンス (DV) とは、夫婦や恋人など親しい間柄で起こる問題であり、一方がもう一方を、暴力を用いて支配 (コントロール) することをいいます。暴力の種類には、“殴る” “ける” といった身体への直接的な暴力のみならず、“無視する”、“暴言を吐く” 等の精神的暴力、“セックスを強要する” 等の性的暴力、“生活費を渡さない” 等の経済的暴力、“友人や知人などの付き合いを制限する” 等の社会的暴力、等々、様々な暴力を含みます。

2014 年の内閣府の調査によると、日本人の 4 人に 1 人がパートナーから何らかの暴力を受けており、妊娠期には 23.4% の暴力を受けた経験のある妊婦がいることも報告されています。妊娠期に暴力被害をうけることは、赤ちゃんが小さく生まれたり、お母さんが産後にうつ病になりなりやすかったりするといった赤ちゃんやお母さん方の健康問題との関係も海外では明らかにされています。

DV は表に出づらい問題ですが、女性が妊娠したり出産する場合には、妊婦健康診査等で定期的に産院を訪れ、女性と助産師や看護師が会う機会があります。この機をとらえて、DV 被害者への支援をすることで、女性や子ども達の健康被害を食い止めることができるのではないかと考え、DV 被害を受けている女性は、妊娠、出産、産後とどのような思いで過ごしており、どのように DV 被害からの回復を歩んでいくのかを明らかにしました。

過去に DV 被害を受けた経験があり、現在は加害者と別れている女性 21 名にインタビューを行った結果、DV 被害からの回復過程として、段階 1 < 家族維持のために DV 被害の認識を意識下におしこめている >、段階 2 < 夫への期待が失望に変わり DV 被害を認識していく >、段階 3 < アンビバレントな感情を抱えたまま DV の関係を出る >、段階 4 < DV の関係から心身ともに出る > といった 4 つの段階があることがわかりました。そして、女性達は、《自分らしさを取り戻していく DV 被害からの回復》をしていました。特に妊娠期には多くの DV 被害女性は DV 被害を受けていることを認識しておらず、気持ちが揺れ動く不安定な状態がありました。

人には必ず回復する力があります。この研究結果が、DV 被害を受けている女性の回復を支援する一助になることを祈っています。